

オトナのための日本語塾

レポート集 2022

武庫川女子大学言語文化研究所 編

まえがき

この冊子は、武庫川女子大学言語文化研究所による「オトナのための日本語塾」（以下、日本語塾）に参加された“塾生”による報告集です。日本語塾は、日本語の表現と理解について、真剣に楽しみながら考える場です。日本語が好きという条件をクリアした人たちだけが参加できます。

今年度も、コロナ禍の中5回の開催をすることができました。塾生の人たちの熱心さのおかげです。感謝しかありません（15・16ページ参照）。

ただ、日本語塾では困った現象が起きています。塾生たちがみんなお菓子をお土産にもってきてくださるのです。それも、それぞれにいろいろと考えたり工夫したりして。まるで、日本語塾の勉強よりも、そういう仲間との交流が楽しくて来てくださるのではないかと、塾長が嫉妬するほどにです。そして、やっかいなことに、塾長もそれにつられて、機会があれば何か差し上げられるものはないかと考えてしまうようになってしまいました。本当に困ったものです。

さて、今回も昨年につき、「見たヨ・聞いたヨ」のレポートがあります。これはヒットでした。ちょっとした言葉の見聞が、実は深い意味をもっているのです。ほんの何気ない言葉にひっかかりを覚えて、それを掘り下げると、見えるものが違ってくるのです。それを日本語塾で、みんなであれやこれやと楽しんでいます。

まさにドラマ鑑賞の世界です。ドラマがおもしろくなるか、つまらないままかは、作り手ではなく観客にあることを確信しました。観客のレベルが高ければ、つまらないドラマもおもしろく見ることができるのです。日本語塾は、つまらない言葉の世界をドラマチックに見る劇場です。あなたも参加してみませんか。

塾長 佐竹 秀雄

目 次

まえがき	佐竹 秀雄	
最近気になる言葉（PART II） _____	竹腰 純	- 3 -
見たヨ・聞いたヨ		
_____	上野 和美	- 8 -
烈火のごとく 振り下ろすのか、振り上げるのか ゼリーは食べる物？ 飲む物？ 「ヌーベルバーグの旗手」考① 「ヌーベルバーグの旗手」考② 「かけっこ とびっこ」 心の琴線に耳を傾ける？		
_____	谷本 由希子	- 15 -
想像劇場 感謝しかない 自分味		
_____	高野 啓	- 17 -
誰に対する言い訳？ 大丈夫です みられる 思える 人となり つながれる		
《記 録》		- 20 -

最近気になる言葉（PART II）

竹 腰 純

1. はじめに

オトナのための日本語塾に入塾してから、言葉に関する興味は格段に増加した。『レポート集 2019』に最近気になる言葉として「処方せん」「母校」「姑息」について書いた。その後、テレビのコメンテーターの発言、SNS 上のコメントなどに違和感を覚えることが多くなり、再び最近出会った気になる言葉について書いてみることにした。

2-1. 夜ご飯

昨今テレビを見ていると若い人だけに限らず「夜ごはん」と言う人が年齢層を問わず増えてきた。我が家にある『広辞林新版 19 刷（昭和 39 年）』には当然載っておらず、最近発刊の辞書を調べてみると、『大辞林（第四版第二刷 2019 年）』、『明鏡国語辞典（第三版 2020 年）』、『三省堂国語辞典（第八版 2022 年）』で発見することができた。

よるごはん【夜御飯】晩御飯。夕食。（大辞林）

よるごはん【夜御飯】晩御飯。夕御飯。（明鏡国語辞典）

よるごはん【夜御飯】「夕ごはん」の新しい言い方。（三省堂国語辞典）

『大辞林』には「近年の若者言葉」、『明鏡国語辞典』には「比較的最近つかわれるようになった語で、違和感をもつ人も多い」、『三省堂国語辞典』には「第二次世界大戦前後から幼児語に見られ 1990 年代に広まったことば」と何れも注釈付で記載されていた。夜の食事の呼び方は「晩」「晩ご飯」「晩餐」「晩食」「晩飯」「夜食」「夕餉」「夕ご飯」「夕食」「夕飯」と多数ある。それに比べて朝は「朝」「朝餉」「朝御飯」「朝飯」「朝食」、昼は「昼」「午餐」「昼食」「昼飯」と少ない。

『新明解国語辞典』をひくと、

あさ【朝】日の出からの数時間。〔広義では日の出から正午までを指す〕

ひる【昼】①一日のうち、太陽の出ている間。②朝から夕方までの間。③昼飯。

ゆうがた【夕方】太陽が西に傾いてから、あたりが暗くなるまでの間。

ばん【晩】日の暮れ(たあと)。夜(になる少し前)。夕。

よる【夜】一日のうち、太陽が沈んで暗い間。日の入りから日の出までの間。

とあり、24 時間の中で「夜」は「朝」「昼」より長いだけに既存の言葉だけでは足りず「夜ごはん」が生まれてきたのは理解が出来ないこともない。

自宅の『広辞林』には「晩ご飯」「夕ご飯」は載っておらず、「夜食」は「①昔、一日二食であったとき、夜になって特別に設けた食事のこと。②晩飯。ばんさん。夕飯。」とある。

生活様式の変化が「言葉」の変化に影響してきたと思われる。しかし、「晩ご飯」から「夜ごはん」への変化は、「晩」のイメージの悪さが影響しているのではないかと考える。「晩」は「晩期」「晩節」「晩年」など人生の終わりを感じさせる。一日の疲れを癒し、家族揃って、あるいは恋人や友人と共にする食事は「晩ご飯」より「夜ご飯」が適しているように思えてきた。

2-2. 忖度

それほど目にすることも耳にすることもなかった「忖度」がメジャーな言葉になったのは2017年3月23日学校法人森友学園の籠池理事長が日本外国人特派員協会での記者会見で発した時からである。

そんたく【忖度】《詩經にある》他人の心中をおしはかること。心中を推察すること。推測。推察。
(広辞林)

そんたく【忖度】①[相手の気持ちを]推測すること。②有力者などの気持ちを推測し、気に入られるように行動すること。〔二十世紀末から広まった用法〕(三省堂国語辞典)

そんたく【忖度】①他人の気持ちをおしはかること。推察。②地位や立場が上の者の意向を推測しそれにそのような行動をすること。

『広辞林』にあるように『詩經』にあるほど歴史のある言葉で、古い辞書の記載は「心中を推察すること」のみであるが、最近の辞書では推察するだけでなく、推察した後の行動が重視されている。2000年前後から政治の世界で使われるようになり、森友学園関連では「良い忖度と悪い忖度がある」という発言までが出るようになり、悪い印象を持つ言葉に成り下がってしまった。

忖度するには相手の表情を読み取り、仕草にも注目する必要がある。昨今のコロナ禍、在宅勤務で面談することが減り、リモート会議やマスク越しでの会話では表情が読み取れず、忖度したくとも出来ない人が増加しているのではないかと心配になる。

2-3. さんかい【三階】

最寄り駅近くのショッピングセンターを歩いていたら、若い女性たちの「さんかい、さんかい」との声が聞こえてきた。直ぐに意味が解らなかったが、彼女たちは三階に出来たお店を目指していると分かった。その後知り合いの若い人たちに聞いてみると「さんがい」ではなく「さんかい」と発音する人が多数を占めた。辞書をひいてみた。

さんがい【三階】①建物で地上の一番下の階から数えて三番目の階。②芝居の楽屋で下級

俳優のいる大部屋。また、下級俳優。(大辞林)

「さんかい」には「山海」「参会」「散会」「散開」はあるが、「三階」はなかった。一階、二階、三階、四階、五階、六階、七階、八階、九階、十階のうち「がい」になるのは「三階」だけである。『数え方辞典(飯田朝子著)』によると「個」や「本」などの助数詞の種類は約500あるという。これだけでも大変なのに、数が変わると清音、濁音、半濁音が混在するのを覚えるのはかなり難しいと思われる。自分がどのように覚えたのか記憶にないが、人に教えるのはかなり困難であろう。覚えやすくするために全てを清音にする「階」の数え方が幅をきかせてきているように思える。読売テレビの道浦俊彦氏も3月24日のブログに日本テレビの男性アナウンサーが北朝鮮の発射した4発のミサイルを「ヨンハツ」と読んだことに「ヨンバツ」ではないかと書かれている。難しい助数詞を外国人に教える日本語の先生方のご苦勞は簡単には想像できない。

また、日本人は濁音を嫌うという説もあるようだ。私もいつの頃からかフリガナはタケゴシからタケコシに変更した。茨城県や茨木市の住民も濁音に神経質な方が多い。

2-4. しっかり

「しっかり」と言う言葉も最近よく聞く。政治家に多いがスポーツ選手からもよく聞く。女子マラソン選手が世界選手権にむけて「しっかり走りきりたい」。センバツ高校野球で敗れた監督が「敗戦をしっかり受け止めて夏に」とインタビューに答えている。

歴代首相の施政方針演説の中にも「しっかり」出て来る。

羽田首相「しっかりとした将来の目標に向かって(1994年)」

村山首相「私は、このことをしっかりと心に置いて(1995年)」

安倍首相「しっかりと結果を生み出す働き方改革を(2017年)」

結構古くから使われているが、何れも「しっかりと」である。直近の岸田首相の演説は「企業が収益を上げて、労働者にその果実をしっかり分配し(2023年)」で「と」が抜け「しっかり」となっている。

自分の人生を振り返ると「しっかり」という言葉には良い思い出がない。親から、先生から、先輩から、上司から「しっかりしろ」と怒鳴られたことしか思い出せない。それに対する返事は「はい」のみであって、自分から「しっかり」と返事をした記憶がない。

施政方針演説ならせめて「しっかり分配し」ではなく「確実に分配し」という発言にしてもらいたい。

3. まとめ

冒頭にも書いたが言葉の変化に敏感になった。言葉が気になるため肝心の会話の本質を聞き逃すことも増えた。

「夜ごはん」自分では使わないが、慣れてきたので聞いても違和感がなくなってきた。ウ


クライナから日本に避難してきた人を対象としたオンライン日本語教室が2022年3月から始まった。文化庁が日本語学校に委託して提供するプログラムには「朝、昼、晩、夜」「朝ご飯、昼ご飯、晩ご飯、夜ご飯」「おはよう、こんにちは、こんばんは、おやすみ」とある。「夜ご飯」に文化庁のお墨付きが出たようだ。

このレポートを書いているのは2023年3月31日。西宮市の日の出は5時49分、日の入りは18時19分で12時間30分の夜は「晩酌」で始まる。これだけは「夜酌」とならないように願ってこのレポートを締め括る。

見たヨ・聞いたヨ

一般的ではないけれど、気になる表現、日本語としてちょっと変だけどおもしろい表現、表現した人の事情を想像したくなる言葉など、見たり聞いたりしたものを分析して報告するものです。

見たヨ 聞いたヨ

 烈火のごとく

今なおロシア軍の攻撃が続くウクライナにビシウという小さな街がある。そのビシウについて、2022年3月末、あるテレビ番組のレポーターが「烈火のごとく燃え盛る街」と報じていた。爆撃によって焼き尽くされる様子を伝えていたのだが、「烈火のごとく」の使い方が気になった。「烈火」は火そのものであり、「ごとく」で表現する必要はない、比喩なら「烈火のごとく怒る」だろう、と。




『精選版日本国語大辞典』を引くと、「烈火」は「はげしく燃える火。猛火。」とあり、経国集（827年）の用例「烈火炎々、洪波^{ひょう}森々」が挙げられていた。また、「烈火のごとし」も項が立てられており、服部誠一『東京新繁盛記』（1874-76）の「舌戦益々熾^{さかん}にして烈火の如く」が用例としてあった。

本当の火でないからこそ、まるで火のように怒ったり、言い争ったりするのである。ビシウの事態を伝えるなら、やはり「烈火に包まれる街」や単に「燃え盛る街」で事足りる。

では、なぜ「~のごとく」と言ってしまうのか。お決まりのフレーズだから、と言われればそれまでであるが、思うに、日本人にとって、戦争で街を焼かれる、街に戦火が広がるなどという事態が、現実のものとして捉えにくくなっていることも関係があるのではないか。戦禍を伝える「焼け野原」ももはや遠い言葉になった。さらに、「烈火」も、どこか地獄の「業火」のような印象で、目の前に存在するものだと認識しにくい。

つまり、「烈火」に続く語は、いつも「のごとく」で十分。そのような感覚から「烈火のごとく燃え盛る」となったのではないか。臆測に過ぎないのだが、「烈火」を比喩としてのみ使える平和のありがたさを感じながら、そう思った。

 振り下ろすのか、振り上げるのか

ロシア軍によるウクライナ侵攻を伝える情報番組で、ロシア情勢の専門家が「（プーチン大統領は）上げた拳を振り下ろせなくなっている」と述べていた。西側諸国を中心とした経済制裁が進む中で、プーチン大統領は窮地に陥りながらも引くに引けない状態にある、との分析であった。

しかし、それを言うなら「振り上げた拳を下ろせなくなっている」だろう。単なる言い間違いだと思うが、「振り」を「上げる」と「下ろす」のどちらに付けるかによって印象は随分と異なる。

「振り」には、勢い、つまり速さや強さがあらわれる。「振り上げた拳を下ろす」なら、

怒りの発露として勢いよく拳を上げ、その拳を（静かに／理性でもって）下ろす、と解されるだろうが、「上げた拳を振り下ろす」では、勢いがよいのは下ろすときとなってしまう。大変キケンである。したがって、専門家のいうとおり、プーチン大統領が「上げた拳を振り下ろせなくなっている」のであれば、それは大いに歓迎すべき事態なのだが……。

👉ゼリーは食べる物？ 飲む物？

テレビ局のアナウンサーが、ある取材の舞台裏を伝えるのに「食事時間が取れない報道関係者の中には、このようなゼリーを食べる人もいた」と言っていた。画面には、吸い口付きのパウチ容器に入った栄養補給用ゼリーが映し出されていたのだが、それを見て「ん？ 食べる？」と思った。

確かにゼリーは食べ物であるが、容器の形状のせい、摂取のしかたのせい、「食べる」という動詞がどうもしっくりこない。「ゼリーを食べる」と聞くと、スプーンで口に運んでもぐもぐ食す姿を思い浮かべてしまう。「飲む」の方が適切ではないかと思った。このタイプのゼリーは、吸って口に入れたあとは咀嚼なしに飲み込めるからである。



インターネットで調べると、商品の一般名称としては「ゼリー飲料」や「飲むゼリー」が多く使われていることがわかった。やはり、「飲む」ものという認識が優勢のようである。

しかし、「ゼリーを飲む」という表現はどうだろうか。少なくとも、実物の映像がなければ、「ん？ 飲む？」と、これまた違和感を覚えるだろう。ゼリーは本来食べ物。聞くだけで喉が詰まりそうになる（ゼリーがまだまだ固かった時代を知っているせいでもあるが…）。

推測するに、食事の代わりに、いや食事として、栄養を摂取しているからそう表現したのではないだろうか。目的から導かれた動詞としてなら、「食べる」は適切である。

とはいうものの、違和感を覚えたのも確かである。では、あれを摂取することを何と云えばよいのか。いっそのこと、「飲む」も「食べる」もどちらも使わないというのはどうか。「栄養補給用のゼリーを口にする人もいた」や「栄養補給用のゼリーで食事を済ます人もいた」、「栄養補給用のゼリーで空腹を満たす人もいた」と言って逃げるのである。実物の映像がなくても、伝えたいことはほぼ伝わるのではないだろうか。

👉「ヌーベルバーグの旗手」考①

2022年9月、フランスの映画監督ジャン＝リュック・ゴダールが死去した。BSワールドニュースの「フランス2」（ダイジェスト版、日本語音声）で訃報が伝えられた際、通

訳者が「ヌーベルバーグのはたて」と表現するのを聞いた。「きしゅ」ではなく「はたて」である。

ヌーベルバーグとは、「新しい波」の意で、「一九五八年頃からフランス映画界に現れた若い映画作家たちとその作品傾向」（『明鏡国語辞典』）を指す。映画監督のフランソワ・トリュフォーやエリック・ロメール、ジャン＝リュック・ゴダールについて言及されるときには、必ずと言っていいほど冠せられる「ヌーベルバーグの旗手^{きしゅ}」。定型表現ともいうべきフレーズなので、「はたて」と聞き、驚いた。

なぜこのようなことが起こるのか。日本語訳の音声担当者は自分で原稿を作成しなかったのだろうか。あるいは、これまで「きしゅ」と耳にする機会がなかったのだろうか。

「旗頭^{はたがしら}」や「旗印^{はたじるし}」など訓読みにする語があるので、その時たまたま引きずられてしまったのだろうか。

いずれにせよ、「はた」と口から出てしまったので、（それを言い直さずに済むよう、）訓読みで「て」を付けた可能性はある。「歌手」を「歌い手」、「担当者」を「担い手」と、文脈によっては言い換えが利くように。そう考えていくうちに、そもそも「旗手」には「きしゅ」の読みと「はたて（／はたで）」の読みがあるのかもしれない、と思い至った。

辞書にあたってみたところ、「旗手^{はたて}」は『精選版日本国語大辞典』に見出し語として収録されていた。しかし、語釈は「長旗の風にひるがえる先端。はたあし。はたのあし」。

『大辞泉』にも、ある語の語釈の一部に「はたて」を見つけたが、その語は「旗脚^{はたあし}」であった。「旗を持つ人、担い手、牽引者」の意を期待したが、残念ながら、それはなかった。「旗の持ち手」としての「はたて（／はたで）」は辞書では認められていないようである。

結局、謎は謎のままであるが、少なくともゴダールは、旗の先端にひるがえる人物ではなく、やはり、旗を持って先頭に行く「旗手^{きしゅ}」でなければならない。

「ヌーベルバーグの旗手」考②

フランスの映画監督ジャン＝リュック・ゴダール死去の報に接し、改めて思った。自戒を込めて言うのだが、ゴダールやロメールを評するには「ヌーベルバーグの旗手^{きしゅ}」と言っておけばよい、という皮相さ・安直さがある。

ある人物について語られるとき、その人物の修飾語として定番のフレーズがあるという

のは、実にすごいことである。「ピアノの詩人」「炎の画家」「平民宰相」「平成の怪物」。誰もがその人物を象徴的存在とみなすからこそ使えるのであり、まさに、その人物が名を成した証拠といえる。

しかしながら、このような便利な修飾フレーズを使っていると、徐々に人物像としての厚みや深みが失われていくように感じる。枕詞のように、あるいはクイズの問題と答えのように、フレーズと人物名とを簡単に結びつけて「はい、終わり」となりがちだ。業績があるが故に歴史に刻まれるフレーズが生まれるのだが、生まれたフレーズによってその人物の歴史が平板に捉えられてしまうという危うさがある。

「かけっこ とびっこ」

滋賀県彦根市発祥の大手スーパー「平和堂」。県内を中心として関西・東海・北陸に156の店舗を展開し、2022年には創業65周年を迎えた。この節目の年の特別企画として、滋賀県出身のアーティスト西川貴教氏が、店のイメージソングである「かけっこ とびっこ」を歌うこととなった。

西川氏が「滋賀県人のアンセム（＝国歌や校歌のように皆が愛着を持って歌う、一種の応援歌）」とまで呼ぶこの歌は、昔から店内放送で流れていたもので、滋賀県人なら誰もが歌える。元県民の私もそうである。もともとは女声の歌唱であったのだが、この度、西川氏バージョンとなり、一時間に二回、彼の伸びやかな美声が店内に流れることとなったのだ。

そんな郷土愛のシンボル「かけっこ とびっこ」であるが、実は、いつの頃からか歌詞が変わっている。私が幼少の昭和時代に聞いたものとは明らかに異なる。西川氏バージョンになったからではない。数年前、いやもっと前に何か所かが変えられているのだ。歌詞の変化については、ネット上でも一部話題になっている。しかし、私の認識と完全には一致しない。

私の記憶では、次のように変わっている（と思う。） 波線で示したところが当該箇所である。

昔の歌詞

かけっこ ちびっこ いじめっこ
みんな集まれ 平和堂
わんぱく坊主も 泣き虫も
ママのお供で ついてゆく
はずむ心のお買い物 平和堂



現行の歌詞

かけっこ とびっこ 元気っこ
みんな集まれ 平和堂
わんぱく坊やも なかよしも
ママのあとから ついてゆく
はずむ心のお買い物 平和堂

(現行の歌詞は「平和堂」の web. サイトより)

来店する人が気持ちよく買い物できるよう、社会情勢に合わせて変更（または、うまく微調整？）されたものと思うが、現行の歌詞には「配慮」や「自主規制」の色がにじんでいる。子供のいじめや人権問題に関わると考えられたのであろう。

実のところはどうなのかと、平和堂の web. サイトの問い合わせフォームを利用して変更内容を尋ねてみた。すると、時代の意識に合わせて歌詞を変えたことは確かだが、具体的な変更箇所や変更時期については公開していないという回答であった。

もし私の記憶が正しかったとすれば、歌のタイトル自体にも「？」マークがついてしまう（そもそも昔はタイトルもなかったように思うが）。つまり「かけっこ とびっこ」でなくなってしまう。社会情勢を慮って歌詞を変更したという事実を思うと、下手に質問に答えるようリスクは取りたくないと判断したのかもしれない。

時代による歌詞の見直しは、もし今後もあるなら、次は「ママのあとから」あたりではないかと思う。ママと行くのが一般的と限らない。今や家族の形も多様化している。店に流れるテンポのよい、あの歌。一度聞いたらすぐに口ずさめる、あの歌。今後も歌詞に注意を払いながら、私は聞き続け、歌い続けるつもりだ。

「かけっこ とびっこ」は平和堂の web. サイトに、タイトルや歌詞はもちろん、音源も楽譜も載っている。一度聞いてみてほしい。



「不法」か「違法」か

駅へ向かう途中の通りでこのような注意書きを見つけた。集合住宅のごみ置き場の入り口ドアに貼られていたのだが、「ゴミの不法投棄は違法です」とある。

通行人がポイとゴミを捨てたり、住人以外の者が勝手にゴミを置いたりすることを防ぐためなのであろう。ゴミ問題に頭を抱え、強い警告を発したいという気持ちはわかるが、「不法（投棄）は違法」と表現されると、「不



法？ 違法？どっちやねん」とか「不法は違法。そりゃそうやん」とか言いたくなる。
「不法」と「違法」を辞書引くと、『明鏡国語辞典』には次のように書かれていた。

違法：ある行為や状態が法令に適合していないこと。「違法行為」「違法駐車」
「違法性を争う」↔適法、合法

不法：①法律・規則などに違反していること。「広場を不法に占拠する」「不法侵入」
「不法就労者」
②人の道にはずれること。無法。「不法な言いがかりをつける」

また、法令に関わる言葉を解説する『有斐閣法律用語辞典』には、以下のよう記されていた。

違法：ある行為ないし状態が法令に違反していること。適法の反対概念。法令に対する違反と関わりなく、単に道徳上非難されるべきとということとどまる場合は、不当な行為であっても違法とはいえない。「不法」もおおむね同義で用いられるが、どちらかといえば、実質的・主観的観念に重きを置いた場合に用いられることが多い。

不法：法に違反すること。合法に対する。「違反」と同義に用いられることが多いが、主として実質的ないし主観的な違法性に重きを置いて用いられることが多い。例「不法に人を逮捕し、又は監禁した者（刑二二〇）」。ただ、形式的に違法である場合に用いられることもあり、「違法」との間に決定的な違いはない。例「不法に管轄又は管轄違を認め」（刑訴三七八①）

二語に明確な違いはないようで、境界は極めて曖昧であるが、「不法」は反道徳的、反社会的だと感じる場合にも使える、やや情緒的な語といえる。「みだりに」という語への置き換えが利きやすい。

一方、「違法」は、法に反していることを客観的・形式的に表す場合に多く用いられる語といえよう。

例えば、廃棄物に関して言えば、法にかなった投棄などというものは存在しない。法にかなった行為なら一般に「処理」と言う。「投棄」と表現する時点で悪い行為を意味するので「不法」がつく。「不法侵入」も同様で、「侵入」する行為そのものが悪なので「不法」がつく。おかしい言い方だが、「違法に処理する」のが「不法投棄」であり、「違法に立ち入る」のが「不法侵入」である。もはや「不法」を冠する意味がないように思えるが、あえて解釈しようとするればそうなる。ただし、「不法就労」はそれでは説明がつかない。

以上の解釈を「不法投棄は違法です」にあてはめてみると、これは強ちおかしい表現ではないという気になってくる。この「不法」は「みだりに」、つまり、「人に迷惑をかける非常識で身勝手な」の意で、「違法です」の「違法」は、「(客観的に見て) 法に背いている、犯罪である」という意である。さらに、このような理屈を捏ねずとも、見た人には十分に、言いたいことが伝わっている。

とはいえ、この表現を回避する方法はある。「不法投棄は通報します」、「不法投棄は犯罪です」などでよいのではないか。あるいは「住人専用」でも。いずれにせよ、ここがゴミの無法地帯にならないことを願う。

👁️👁️心の琴線に耳を傾ける？

2023年1月14日に実施された大学入学共通テストの国語において、「心のキンセンに耳を傾ける」の「キン」の漢字が問われた。同じ漢字であるものを選択肢の中から選べという内容である。

もう少し詳しく説明する。これはル・コルビュジェに関する評論文中での問いであり、ル・コルビュジェの言を引用した「人間には自らを消耗する〈仕事の時間〉があり、自らをひき上げて、心のキンセンに耳を傾ける〈めいそうの時間〉とがある」という一文の「キン」は、「ヒキンな例を挙げる」「食卓をフキンで拭く」「モッキンを演奏する」「財務をキンシュクする」のうちどれと同じ漢字かというものであった。

答えは無論「モッキンを演奏する」であるが、「心の琴線に耳を傾ける」という表現に私は引っ掛かった。「心の琴線に触れる」はよく聞くし、「琴線」を辞書で引くと一様にそれは用例として出てくる。しかし、「耳を傾ける」のはどうか。琴線はそもそも琴の糸=げん 絃である。絃だからこそ「触れる」が述語として馴染む。耳を傾ける、つまり聞くのであれば、「(琴の) 音」、もしくは「心の声」が適当なのではないか。

原文をあげつらうつもりはない。そもそも訳文からの引用であり、また、前後を読めば文意は理解できる。しかし、その部分の漢字を問うのは、出題としてどうだろうか。「心の琴線に触れる」という表現もその漢字も知っているという受験者の方が戸惑いそうである。引っ掛け問題かと警戒する可能性もある。選択肢があるから解答できると言われれば、そのとおりであるのだが、引っ掛けと見紛う問題を出すことに私は少し引っ掛かる。



見たヨ 聞いたヨ

想像劇場

職場に、以前在籍していた〇〇氏の弟を名乗る△△氏から電話があった。〇〇氏と連絡が取れなくて困っているから、至急△△氏に連絡するよう伝言してほしいとの依頼があった。そこで、〇〇氏に△△氏からの依頼を電話で伝えると、ただ「わかりました」とのあっさりとした返事であった。

その場面に遭遇した私たちは、あれこれ想像したことを口に出し始めた。「苗字が違うのは……?」「連絡が取れないということは……?」「急いでいるということは……?」など。そのとき、上司が「みんなのは想像劇場やけど、実際はシンプルやったりして」と私たちがたしなめるように言った。

「想像劇場」は「想像」と「劇場」から成る。どちらも難しい語ではない。ところが、「想像劇場」をネットで検索すると、韓流ドラマで「想想劇場 ウ・ソル・リ」全2話（妄想劇場と記載の場合もある）がヒットした。日本の例でもごく一部のものしか出てなかった。日本語では一般的ではないということか。

ということは、上司は独自に「想像劇場」という言葉を思いついたのか。それとも、上司はその韓流ドラマのファンなのだろうか。もしくは、実は上司はそのドラマの原作者で、ドラマや「想像劇場」の単語がどれだけ浸透しているか、どんな反応があるかを見ていたのではないだろうか。

またまた、私の想像劇場が始まる……



感謝しかない

ニュースで流れる新成人による親や周りの人に対するコメントや、送別会での退職者による挨拶などで「感謝しかない」が使われるのを聞くことが多くなった。最近はやりのフレーズのようなものである。

「感謝」を含むお礼の言葉としては、ほかに「感謝申し上げます」「感謝の気持ちでいっぱいです」「感謝するばかりです」「感謝の一言に尽きます」などもある。

「感謝申し上げます」は、感謝の気持ちを言うのに謙譲語が使われており、相手を敬っている。

「感謝の気持ちでいっぱいです」は、相手に対する感謝の気持ちで胸がいっぱいである自分の状況を、相手に丁寧語で伝えている。

「感謝するばかりです」は、相手にいくら感謝してもしきれない気持ちであることを丁寧語で表している。

「感謝の一言に尽きます」は、感謝以外の言葉ではうまく言い表せないくらい相手に感謝していることを丁寧語で伝えている。

それに比べると「感謝しかない」は、自分の状況を伝えているだけで、感謝するはずの相手が見えてこない。さらに敬っていない。また、表現も短くて丁寧語を使っていないことで丁寧さが欠けている。そして「しかない」と言い放っており、自己中心的で横柄な態度が感じられる。つまり、「感謝しかない」は「感謝」と言いながらも相手が見えず、相手を敬わず、丁寧さに欠け、自分の状況だけを伝える横柄な態度が見えてくる。

「感謝しかない」を言い始めた人は、自己中心的な人であり、目下の人へ放たれた言葉のため相手を敬わなかったのかもしれない。しかし、それを聞き「新鮮だ」「便利だ」「かっこいい」と思った人々が、背景を考えずに丸写しして「感謝しかない」と言い始めたのではないだろうか。



自分味

帰宅途中、知人と今夜の献立の話をしていたら、知人自身が作った料理の味のことを「自分味」と言っていた。

「自分味」というのは、「プロの味」に対して、普段使っている材料や調味料、自分の技術で作れる料理の味を指すらしい。ただし、知人によると、慣れ親しんだ味で安定した味でなければいけないと言う。

つまり、レシピ本やネットで調べて初めて作った料理の味は、まだ「自分味」ではないのだ。切っただけのものや洗っただけのものも、当然「自分味」ではない。火を入れたり、味付けしたり、かき混ぜたりと手間をかけ、何度も作ってこそ、だんだん「自分味」になるらしい。

ところで、「自分味」と「自分の味」はどう違うのだろう。「自分の味」だと、「プロの味」と対比されて、素人っぽい味が連想される。同じものでも「自分味」と言うことで、少しユニークな印象を与えられるからだろうか。



見たヨ 聞いたヨ

誰に対する言い訳？

朝の HNK の番組の料理コーナーで、料理人が作ったメニューを試食するというコーナーがあります。その際、いつも画面に「試食料理は衛生管理を徹底した調理室で用意しています」というテロップが流れます。また、コマーシャルでマスクを外して話しているシーンでは、隅に小さく「コマーシャルのためマスクを外しています」という表示がありました。

いずれも、コロナが流行する前には見られなかったことです。テレビ局に苦情が入るのか、苦情が入る前の防衛なのかわかりませんが、クレームをつけたがる人の目を常に意識して、構えながら番組を作るのはいろいろと大変なことだろうと想像しています。



大丈夫です

少年が罪を犯し、尋問に対して「大丈夫です」と言って、罪を認めたというニュースが流れていました。わざわざ「大丈夫です」という言葉を用いたと記事にしたことは、原稿を書いた記者もその言い回しに違和感を抱いたからでしょうか。

このケースとは別に、例えば「コーヒーでもどうですか」と尋ねても、「大丈夫です」と返ってくるのが最近よくあります。要るか要らないかを尋ねているのですが、「要りません」というのは失礼だと思うのでしょうか。「結構です」の代わりに「大丈夫」が用いられています。

ノーサンキューの意味の「大丈夫」は、昔の使い方にはなかったものですが、最近ではよく使われます。しかし、少年の「大丈夫です」はピンときません。

しかし、「大丈夫」を辞書で引くと、「あぶなげのないようす。たしか」と書かれています（デイリーコンサイス国語辞典）。先の少年の場合は「あなた（尋問者）のおっしゃることは確かです」という意味で、大丈夫と言ったことになり、ピンとこない割に、妙に理屈に合うのが不思議です。

みられる 思える 人となり

7月8日、珍しく家にいてテレビをつけ放しにしていた時に入ってきたのが、安倍首相の銃撃事件でした。現場の情景がリアルタイムで送られてきます。リアルタイムで状況を伝えるのは大変な仕事です。そんな時に上げ足を取るようなことをいうのは心苦しいし、何らか

の制約があるうえでの表現なのかもしれないので、軽々に指摘するのは的外れかもしれません。しかし、気になったことが2点ありました。

一つは「安倍元首相とみられる男性が心臓マッサージを受けています」とか、「安倍元首相を乗せたと思えるドクターヘリが……」など、衆人環視の中で生じた事件なのに、下線部のような確定的な表現をしていないことに違和感を覚えました。記者自身もその場において起こった事件を見ていたわけですから、「安倍元首相が心臓マッサージを受けている」とか、「安倍元首相を乗せたドクターヘリ」などと断定した言い方でよいと思うのですが、何かまづい事情があるのでしょうか。

もう一つは「人となり」ということばです。

安倍元首相を狙撃した山上容疑者について、「山上容疑者の人となりについて……」という表現がありました。まず、「人となり」を『広辞苑』で引いてみると

・生まれつきの人柄。もちまえ。

とありました。そこで、次に「人柄」を引いてみると

①人の品格。じんぴん。②人品の良いこと。良い人物。

とありました。

これらを合わせて考えると、「人となり」という表現は、どちらかと言うと、好意的にとらえたときに多く用いられそうです。容疑者と呼ばれる人物に用いるのに違和感をもったのは、そうしたことが働いていたようです。ですから、客観的に「山上容疑者の人物像」とでも言ってもらえれば、落ち着いて聞けたと思うのですが……。

👁👁 つながれる

NHKのニュースで、最近の新入社員が上司との業務外でのコミュニケーションを求めているという放送のテロップに「新入社員は上司と対面でつながれる機会をより望んでいる」書かれていました。

「つなぐ（繋ぐ）」というのは、最近のはやりなのかよく使われる言い回しですが、「つながれる」というと鎖につながれるような印象を受けてしまいます。おそらく言いたかったのは「つなぐことができる」という可能の意味だったのでしょうが、受け身の意味にとりたくなります。

「騒ぐ」や「注ぐ」の場合、可能を表すのに「さわげる」「そそげる」と言えます。しかし、「つなぐ」を「つなげる」としても、意味は「つないで長くする」ことで、つまりは「つなぐ」のままです。

そこで、「つなぐ」を使うのをやめることを考えました。すると、「つながる」を使えば「新入社員は上司と対面でつながる機会をより望んでいる」で解決できそうです。あるいは、「新入社員は上司と仕事を離れ



たところでの交流を望んでいる」と、きちんと説明的に述べたほうがわかりやすいのではないのでしょうか。

降り続ける

ワイドショーのニュースで、「今日一日雪が降り続ける予定です。」と聞きました。大雪のニュースなので、まるで「雪さん」が一生懸命意思をもって降ろうとするかのようです。きっと「降り続く」では、大雪の感じが出なかったのでしょうか。



《記 録》

開講場所：武庫川女子大学言語文化研究所 研究所棟 I-609

開講日時：

第1回 2022年6月4日(土)
10時30分～12時30分



第2回 2022年7月30日(土)
10時30分～12時30分



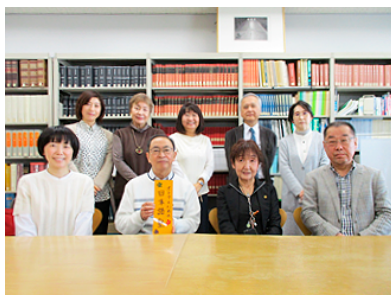
第3回 2022年10月1日(土)
10時30分～12時30分



第4回 2023年1月21日(土)
10時30分～12時30分



第5回 2023年3月11日(土)
10時30分～12時30分



《武庫川女子大学言語文化研究所歌》

作詞：竹腰 純

作曲：松本 卓也

武庫川の 清き流れに 棹をさし 理想の未来 切り開く 絆強める
言の葉に 愛する友と 巡り合う ああ 我らの 言語文化研究所

Score

武庫川女子大学言語文化研究所歌

Moderato (♩=80) 作詞：竹腰 純
作曲：松本卓也

The musical score is written in G major (one sharp) and 4/4 time. It consists of seven staves of music with lyrics underneath. The lyrics are: 1. むこがわのきよき 2. ながれに さおをさし りそう 3. のみらいきりひらくきずな つよめ 4. ることのはにあいずるともとめぐ 5. りあう ああ 6. われらのげんごぶんかけんきゅうしょ 7. A final staff with a double bar line.

1. むこがわのきよき

2. ながれに さおをさし りそう

3. のみらいきりひらくきずな つよめ

4. ることのはにあいずるともとめぐ

5. りあう ああ

6. われらのげんごぶんかけんきゅうしょ

7. —

C

企画・開催 佐竹秀雄（本研究所研究員） 岸本千秋（本研究所助教）
レポート指導 佐竹秀雄 岸本千秋
開催補助 向井弥生（本研究所職員）

使用イラスト：いらすとや <https://www.irasutoya.com/>
フリービーAC <https://www.freebie-ac.jp/>

オトナのための日本語塾
レポート集 2022

刊行 2023年3月31日
編集 佐竹秀雄 岸本千秋
〒663-8558 兵庫県西宮市池開町 6-46
武庫川女子大学言語文化研究所
電話 0798(45)3536
FAX 0798(45)3574
Mail ilc@mukogawa-u.ac.jp
URL <http://www.mukogawa-u.ac.jp/~ILC/>
発行 武庫川女子大学言語文化研究所
印刷 大和出版印刷株式会社
